

会 議 要 旨

会 議 の 名 称	令和 4 年度第 1 回川越市地域包括支援センター等運営協議会
開 催 日 時	令和 4 年 6 月 2 9 日 (水) 14 時 00 分 開会 ・ 15 時 30 分 閉会
開 催 場 所	ウェスタ川越 多目的ホール C・D
会 長 氏 名	齊藤正身会長
出席委員氏名	大塚副会長、岡持委員、渡邊委員、酒井委員、佐藤委員、近内委員、柴委員、山田委員、大友委員、岡野委員、夏目委員 (11 名)
欠席委員氏名	今野委員、柴崎委員、師岡委員 (3 名)
事務局職員氏名	福祉部 近藤部長 介護保険課 奥富課長 健康づくり支援課 後藤課長 地域包括ケア推進課 富田課長、渡辺副課長、内藤副主幹、関根主査、三ツ目主任、飯田主任 福祉相談センター 後藤所長 (10 名)
オブザーバー	川越市地域包括支援センターキングス・ガーデン 安原氏 〃 小仙波 新井氏 〃 連雀町 石井氏 〃 よしの 渡邊氏 〃 たかしな 廣川氏 〃 みずほ 佐々木氏 〃 だいとう 荒木氏 〃 かすみ 佐波古氏 〃 みなみかぜ 村田氏 (9 包括 9 名)
配布資料	1 次第 2 資料 1 令和 3 年度地域包括支援センター事業実績について 3 資料 2 地域包括支援センター別令和 3 年度総合評価・課題・令和 4 年度目標について 4 資料 3 令和 3 年度認知症地域支援推進員の活動実績 5 資料 4 令和 3 年度福祉相談センター相談実績 6 資料 5 令和 4 年度川越市地域包括支援センター等運営協議会のスケジュールについて (予定) 7 資料 6 予防給付ケアプラン・介護予防ケアマネジメント委託

居宅介護支援事業所の承認について

- 8 リーフレット 「このまち」で、いつまでも
- 9 チラシ 川越市お帰り安心ステッカー
- 10 参考資料1 令和4年度地域包括支援センター各種状況について
- 11 参考資料2 川越市地域包括支援センターの事業所名の変更について（お知らせ）

（当日配布資料）

- 12 川越市地域包括支援センター・事務局名簿

議 事 の 経 過

1 開 会

2 会長あいさつ

3 諮問

4 報 告

・傍聴人の確認<傍聴人なし>

(1) 令和3年度地域包括支援センター事業実績について

【資料1】【参考資料1】を基に事務局より説明する。

意見・質疑等

委員

地域ケア会議の実施状況に関して、担当圏域ケア会議で洗い出した地域課題は、どのように課題解決へ向けて動いているか。また、担当圏域ケア会議で洗い出した地域課題は、地域ケア推進会議を活用した解決方法もあると思われるが、地域ケア推進会議が開催実績回数が0回となっている。会議の開催ができなかった理由は何か。

会長

地域ケア推進会議は、圏域ごとではなく市全域が対象の会議となっている。コロナ禍という背景もあり、開催が難しかったということだと思う。

事務局

地域課題の掘り起こしから解決に向けては、地域ケア会議全体の連動がうまくできていないのが本市の現状である。今年度、埼玉県総合支援チームなども活用しながら、地域ケア会議全体の再構築、見直しを進めているところである。今後の地域包括支援センター等運営協議会で、改めて説明させていただく。

委員

担当圏域ケア会議には、生活支援コーディネーターも出席され、協議体へ持ち帰って情報交換等も行われていると思う。こうした部分で連携強化ができると課題解決につながると思う

委員

権利擁護事業に関して高齢者虐待相談件数が増加しているとのことだが、どのように対応をしているか。

事務局

令和2年6月に地域包括ケア推進課の出先機関として福祉相談センターを開設したことに伴い、高齢者虐待の対応は福祉相談センターにて担っ

	<p>ている。このことで、土曜日の相談受付が可能となったことや、職員の増員等から、地域包括支援センターからの相談件数が徐々に増え、対応件数が増加したもの。</p>
委員	<p>介護予防の取組は効果を実感しているか、体感でよいので教えてほしい。また、地域ケア会議と生活支援コーディネーターの協議体との連携強化について今後、どのように連携強化を図っていくか、方針等があれば教えてほしい。</p>
オブザーバー	<p>(地域包括支援センター)</p> <p>介護予防の取組について、新型コロナウイルス感染症の影響で休止した自主グループの数は多いが、一方で、再開した自主グループに対して体力測定を行っても体力が落ちている人は少なく、介護予防の取組について効果があることを実感している。</p> <p>また、新型コロナウイルス感染症の影響で要介護認定の申請は増えたが、目標をもって介護予防の事業等へ参加している方が多いような印象を受けるので、介護予防の効果はあると感じる。</p>
委員	<p>介護予防の取組について、昨年度から進めていた通所型サービスC事業(ときも運動教室)の見直し後の実施が7月からスタートするので、今年度見直しが行われる地域ケア会議での自立支援、住民主体の介護予防との連携を注視したい。</p> <p>また、通所型サービスC事業(ときも運動教室)を3か月間終えた後の地域資源とのつなぎとして、生活支援コーディネーターとの連携があると思うので引き続き頑張ってもらいたい。</p>
事務局	<p>地域ケア会議と協議体との連携について、川越市内では現在、17個の第2層協議体が立ち上がっている。また、担当圏域ケア会議には生活支援コーディネーターも出席しており、担当圏域ケア会議で吸い上げられた課題は、今後、生活支援コーディネーターを通じて第2層協議体へつなげていけるよう連携を推進していきたいと考えている。</p>
会長	<p>それぞれの会議や事業の連携は、資料に数字として表れにくいので、事例が示せるとよい。</p> <p>(2) 地域包括支援センター別令和3年度総合評価・課題・令和4年度目標について</p> <p>【資料2】を基に事務局及びオブザーバー(地域包括支援センター)より報告・説明する。</p>

委員	<p>意見・質疑等</p> <p>どの地域包括支援センターでもオンラインの活用を試みており、専門職同士の会議の場は比較的充実してきていると考える。一方で、今後は高齢者に対してもオンラインを活用していく必要性が生じてくると思うが、今後、どんな取組が必要と考えるか。</p>
オブザーバー	<p>(地域包括支援センター)</p> <p>比較的年齢の若い高齢者で、オンラインの利用も経験がある人はいるが、対象者の多くは、自身のみでの利用が難しい人が多く、紙媒体での情報発信等が中心となっているのが現状である。ご家族のサポートがあればオンラインを活用できる環境にある人は多いので、ご家族を通して少しずつ活用できるようにしていきたい。</p>
委員	<p>スマートフォンを利用したLINE講座を実施している例なども他自治体で多くあるほか、川越市社会福祉協議会では高齢者向けにeスポーツの普及を積極的に行っている。なんとか工夫してオンラインを活用できるよう考えていけるとよい。また、高齢者のオンライン活用に向けては地域包括支援センターだけの問題ではないので、同じようにオンライン化していく必要がある団体同士で情報交換できる場が作れるとよいと考える。</p>
委員	<p>複数の地域包括支援センターの報告内容で、相談内容が複雑化してきていること、介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの件数が増加していることについて触れられている。これらの問題に対して、どのように工夫して対応しているか聞かせてほしい。</p>
オブザーバー	<p>(地域包括支援センター)</p> <p>相談内容は複雑化してきており、地域包括支援センター職員が知らないことも多く、調べる必要性がある相談となることが多くなってきているように感じている。</p> <p>相談内容の複雑化に対応するためには、幅広い専門職とのつながりが数多く必要だと感じており、ケアマネ情報交換会でさまざまな人を呼ぶ等している。</p>
委員	<p>ケアマネジメントの質や量の課題について、他自治体では、上乘せや横出し等により介護予防支援・介護予防ケアマネジメントを受けやすくするための支援を保険者側で実施する等の工夫をしている。こうしたことの議論ができるとよい。</p>
委員	<p>自主グループの活動再開に向け、他自治体の事例では、再開した自主グループをまじえた情報交換会が非常に効果的であると伺っている。再開し</p>

	<p>た自主グループの話で刺激を受けたり、実施した感染症対策等を聞くことで、再開する方向性に踏み切ったりすることがあるようだ。いきなり再開ではなく、まずは再開に向け世話人同士で話し合いの場を設け、皆が納得したうえで再開への機運を高めることで、比較的スムーズに再開する事例が多いとのことなので参考としてほしい。</p>
会長	<p>各種事業等の実施方法については、集まるかオンラインかの2択ではないと思う。集まり方について、もっと工夫できるのではないか。要介護になる確率を研究したデータでは、集団で運動する人の方が、一人で運動する人よりも要介護となる確率が低く、さらには、集団で集まるが運動をしない人の方が、1人であっても運動する人よりも要介護となる確率が低いとのデータがある。集まることは重要であるため、事業の実施方法は何かもう工夫できると思う。集まるのは大人数でなくともよい。</p>
	<p>(3) 令和3年度認知症地域支援推進員活動実績について 【資料3】【リーフレット「このまち」で、いつまでも】【チラシ 川越市お帰り安心ステッカー】を基に事務局より報告・説明する。 ・意見・質疑等</p>
委員	<p>川越市お帰り安心ステッカーの発行件数、身元の発見事例の件数を教えてほしい。</p>
事務局	<p>川越市お帰り安心ステッカーの利用者は、平成29年1月の事業開始から、計478名に対して配布している。また、今日現在で270名の方が利用中である。</p> <p>川越市お帰り安心ステッカーにより発見につながった事例の件数については、令和2年7月より事例を収集しており、今日現在で11件の発見に至った事例が確認できている。</p>
委員	<p>過去、シルバーカーで出かけたまま行方不明となってしまう、半年後ご遺体で見つかったことがあった。お帰り安心ステッカーは、こうした事例を少しでも減らす効果がある。もっと周知を行った方がよい。</p>
事務局	<p>ご指摘の通り、川越市お帰り安心ステッカーは徘徊高齢者家族への支援という側面があるが、まずは、市民がステッカーをつけている人を見掛けたときに声掛けできるように認知度を上げることが重要と考える。本日の会議資料として配布したチラシを店舗に掲示していただく等により周知を図っている。</p>
委員	<p>ポスターの掲示だけでは見ない人は全く見ない。自治会回覧等の手段も使った周知も実施してはいかがか。</p>

<p>会長</p>	<p>医療機関等への周知について、CCNかわごえを活用して周知してはどうか。</p>
<p>事務局</p>	<p>自治会回覧、CCNかわごえを活用した周知等について、実施する方向で検討していきたい。</p> <p>(4) 令和3年度福祉相談センター相談実績について 【資料4】を基に事務局より説明する。</p> <p>・意見・質疑なし</p> <p>(5) 令和4年度川越市地域包括支援センター等運営協議会のスケジュールについて 【資料5】を基に事務局より説明する。</p> <p>・意見・質疑なし</p> <p>5 議事</p> <p>(1) 予防給付ケアプラン委託居宅介護支援事業所の承認について 【資料6】を基に事務局より説明する。</p> <p>※承認される</p> <p>6 その他 次回の開催は10月ごろを予定している。 詳細は決まり次第連絡する。</p> <p>7 閉会</p>